

東北地域保全研鑽会（2026年度第1回）

<https://info-jipm.jp/f/tohoku/>



のごあんない

- 設備保全は、“壊れた部品を交換するだけ”ではありません！
設備をいつでもロスなく稼働させることが本来の役割。
- でも、自社だけでは行き詰ってしまうことも。。。
困りごとの解決や、他社の取り組み事例を知りたい方は、
ぜひ、本研究会で一緒に解決してみませんか！！

デンソー岩手における“設備管理”の実例見学と参加企業各社の“自主保全活動の現状”の紹介
(2025年度第3回 会場:株式会社デンソー岩手)



2026年度 第1回 開催概要

日 時	2026年10月16日(金) 13時00分～ ※ 受付開始は、12時45分より開始します ※ 終了時間は、17時00分ごろを予定しています
場 所	トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大衡工場 所在地：宮城県黒川郡大衡村中央平1番地 < https://www.toyota-ej.co.jp/company/office/ > ※ 集合場所は、現地集合です。駐車スペースをご用意します ※ 参加者には、詳細を別途ご案内します
内 容	○ トヨタ自動車東日本 宮城大衡工場の施設見学 ※ 現場視察の際は、保護具(ゴーグル、保護靴)の着用は不要となりますが、安全に配慮した動きやすい服装でのご参加をお願いします ○ テーマをもとに各社の事例紹介(各社7～8分でテーマの事例を紹介) テーマ：以下の中からいずれか1つ ・ 老朽化対策+予備品管理(予防保全、計画保全など) ・ 人材育成(技能伝承、若手の育成、資格取得支援など) ・ 自主保全(7ステップの実施、実際の点検表など) ・ 安全(安全衛生教育についてなど) ○ 意見交換
申 込 方 法	メールにて、お申し込みを受付けます。(FUKYU@jipm.or.jpまで) ※ 参加定員20名様(1事業場につき2名程度まで)の先着順でのお申込みとなります ※ お申込み多数の場合は人数のご調整のお願いや、同業種の方のご参加の場合はお断りすることがございます。あらかじめご了承ください ※ メール送付の際は、下記内容をご入力ください ・ 件 名：東北地域保全研鑽会の申込み ・ 本 文：1. 貴社窓口ご担当者様情報(貴社名、所属、役職、お名前、お電話番号) 2. 参加予定人数(参加者様の情報は、指定様式へのご入力(別途ご案内))
年 会 費	・ 公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 会員価格:無料 ・ 一般価格(上記以外):¥33,000-/名



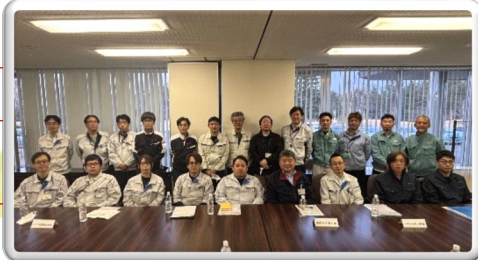
トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大衡工場



定員になり次第、
お申込み終了です
お申込みはお早めに！

東北地域保全研鑽会ってなに？（活動報告）

研究会活動の紹介（2025年度第3回活動レポート）

テ ー マ	● デンソー岩手における“設備管理”の実例見学と取組み事例紹介 ● 参加企業各社の「自主保全活動の現状」をもとにした意見交換	
開 催 日	2026年 3月 25日(水)	
開 催 場 所	株式会社デンソー岩手 (岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山4-2)	
プログラム	● デンソー岩手における“設備管理”の実例見学と取組み事例紹介 ・ ウエハ工場見学 ・ 電子デバイス工場見学 ・ チラーメンテ作業見学 ・ 事例紹介 ● 参加企業各社の「自主保全活動の現状」をもとにした意見交換 ・ 自主保全活動の時間確保の方法 ・ 重点点検項目 ・ 保全部門と製造部門との役割分担の3つの観点で各社の現状を紹介	
参 加 者	東北地域保全研鑽会 会員:22名(9社)	
開催報告	● 2025年度第3回の東北地域保全研鑽会は、デンソー岩手さんにご協力いただき、2026年3月25日(水)に開催しました。今回は、電子部品・半導体製品の製造を担う同社の現場を視察するとともに、自主保全や標準化、予防保全などの取組みをご紹介いただき、大変学びの多い研鑽会となりました。 ◆ デンソー岩手における“設備管理” ● 冒頭では、デンソー岩手さんより会社概要をご説明いただきました。同社はデンソーグループの東北生産拠点として、自動車向け電子部品・半導体製品を製造しており、他社ではマネすることができない、高い品質と信頼性が求められる製品を手掛けています。寒冷地に立地する工場として、空調や換気、防寒対策などの工夫を凝らし、働く人にやさしい職場づくりと安定生産の両立を図っている点も特徴です。 ● 工場見学では、最初にウエハ工場を見学しました。見学窓からの視察ではありましたが、半導体製造に不可欠なクリーン環境の維持が徹底されており、温度・湿度・微粒子の管理や差圧制御など、環境変動を最小限に抑えるための仕組みが整備されていました。微細加工設備の安定稼働を支えるため、設備ごとの状態監視や交換時期の見える化が進められており、わずかな変化も見逃さない保全体制が印象的でした。 ● 続いて電子デバイス工場を見学しました。自動化設備と人の作業が融合したライン構成や、検査工程の自動化など、品質を支える仕組みが随所に見られました。設備ごとの異常履歴や改善履歴が共有され、点検結果の電子化によって記録精度が向上していることも紹介されました。電子部品製造という精密な工程において、標準化・データ活用・教育の三位一体で保全力を高めている点がよくわかりました。 ● その後、チラー設備のメンテナンス現場を見学しました。ここでは、一般的な保全作業ではなく、チラー設備そのもののメンテナンスを内製化している取組みをご説明いただきました。本来は外注で対応することが多いチラーのメンテナンスを自社で行うことで、工期短縮とコスト低減を実現しているとのことでした。さらに、同社の熟練者は各チラーの特性を熟知しており、海外製部品から代替部品への交換対応など、設備の状態に応じた高度な判断と作業を行うことができます。その技術力は社内にとどまらず、他拠点からメンテナンス依頼が寄せられるほどであり、設備を知り尽くした現場力の高さを実感しました。 ● 見学後には、「設備保全の自立化に向けた育成への取組み」と、「パワーカード設備保全課での改善活動」をご紹介いただきました。いずれも現場主体で保全力を高めていくための具体的な事例であり、工場見学後の理解を深める内容となりました。 ◆ 各社の自主保全活動の現状(事例紹介) ● 後半の意見交換では、参加企業各社の自主保全活動に関する課題や取組みが紹介されました。多くの企業で、ライン負荷が高く改善時間の確保が難しいことや、外国人従業員の増加に伴う教育負担の増大が課題として挙げられました。特に、日々の生産に追われる中で、自主保全活動をどのように定着させるかは、多くの企業が直面する共通テーマです。 ● 教育・技能・手順の伝承についても議論が深まりました。自主保全を牽引する人材の育成をはじめ、現場担当者への教育、新人・若手の早期戦力化、さらには外国人従業員への技能伝承など、教育体系や手順伝達の仕組みを整える必要性が強調されました。標準書の写真化や多言語化、作業手順の見える化といった取り組みは、教育負担を軽減しながら品質を維持するうえで有効であり、参加企業の共通認識として共有されました。 ● また、保全と製造の役割分担についても意見が交わされました。難易度の低い保全作業を製造側へ移管するためのランク付けや、移管の優先順位づけなど、現場主体で改善サイクルを回すための仕組みづくりが議論されました。製造と保全が互いの役割を理解し、協働して改善を進める体制づくりが重要であることが改めて確認されました。 ● デジタル化についても、電子帳票による定量評価や温度・振動などの監視データ活用、自作ツールを活用した低コストのデータ連携など、現場の意思決定を誤りなく、迅速化するための取り組みが紹介されました。また、現場が「求めるデジタルツールのイメージを伝えられる力」を育てることが重要であるとの意見も出されました。 ● 今回の研鑽会を通じて、デンソー岩手さんが取り組む保全力強化の姿勢を学ぶことができました。ウエハ、電子デバイス、チラー設備という異なる工程を通じて、精密製造を支える設備管理の考え方と、現場主体の改善文化がよく伝わる内容でした。また、後半で行われた情報交換を含め、今後も「自分の設備は自分で守る」という自主保全の原点に立ち返り、現場が主体的に改善を回す仕組みをいかに定着させるかが鍵となることを改めて実感しました。	(記：JIPM 奥富 弘樹)

東北地域保全研鑽会にご興味ある方は、お気軽にお問合せください
TEL:0120-451-466 (または03-6865-6081) E-mail:FUKYU@jipm.or.jp